

短期オンラインプログラム 修了報告書

| | | | | | |
|--------|-----------------------------|-------------------|---|----|-----|
| 研修先大学名 | McGill University | プログラム名 | English Language and Culture program (Summer 2021 - CEGL) | 国名 | カナダ |
| 氏名 | | 学籍番号 | | 学科 | |
| 研修時の学年 | 2年 | 参加費用 (日本円での概算) | 190,827円(2021年10月13日時点) (\$2,057 (tuition) + \$40.38 (placement test)) | | |
| 参加日程 | 2021年 7月 ~ 2021年 8月 (6週間) | 記入年月日 | 2021年 10月 13-21日 | | |

① 研修前について

研修に参加する目標は何でしたか。

先生やクラスメイトとの会話を通して、英語でのコミュニケーション力を養う。
様々な国からの学生との交流を通して多様な文化に触れる。

② プログラムについて

授業の感想

一日3時間、zoomにて、約20人のクラスメイトと共に受講しました。私のクラスは約半数が日本の学生で、その他にメキシコ、コロンビアなどからのクラスメイトがいました。すべての授業を同じ約20人の仲間と受講し、画面越しではありましたが、毎日教室で会うような感覚でした。
・リーディング、ディスカッションなどで取り上げられるトピックに、取り組んだことのないものが見つかったことも興味深かったです。例えば“alien”をテーマに、実在すると思うかをディスカッションしたり、科学者の意見が書かれた記事を読んだりしました。また、カナダ国内の言語の多様性とその課題など、多文化共生を掲げるカナダならではのトピックに触れる機会も多くありました。今までに馴染みのないトピックや、カナダの多文化社会について知り(リーディング、リスニング等)、考え(ライティング等)、共有し(ディスカッション等)、視野を広げながら、英語学習をすることができたと感じています。

授業以外の部分についての感想

授業の一部でもあるのですが、「新しいアプリケーションを考える」というテーマのもと、最終日にペアでプレゼンテーションを行いました。私のパートナーは、大学のあるケベック州在住のハイチのクラスメイトでした。彼女の発案で、私たちは点字用の検索エンジンアプリケーションを提案するプレゼンテーションを行いました。発表に向け、私たちは個人的に何度がzoomミーティングを行い、発表内容はもちろん、掛け合い、プレゼンテーションスライドのレイアウトなどを、一つ一つこまかに話し合いました。(→別項目にて、また後述させていただきます。)彼女は2人のお子さんがいらして、ご家族との休暇の過ごし方や、ケベックの素敵な街並みについて、写真を見せながらお話してくれました。このような会話もしながら、準備を進め、とても楽しく取り組むことができました。

現地学生との交流について教えてください。 ※交流がなかった場合は、空欄で構いません

Conversation partnerという時間にzoomに入ると、会話やゲームを通して、交流することができました。同世代の学生さんと、それぞれの生活文化、好

③ 研修の成果について

今回の研修を経て、ご自身の中での学習面・精神面の成果があれば教えてください。

参加前は、頭で英文を組み立てることに集中しようとして、なかなか話すに至れなかったことも多々ありました。しかしこのプログラムでは、アウトプット、特にディスカッションの機会がたくさんあったことから、まずは話してみる、という姿勢に繋がったように感じています。毎日英語を読み、聞き、なじみの無い言葉に挑戦する中で、まずはその言葉や表現を使ってみることの大切さを実感しました。それは、この研修を通して先生方やクラスメイトから感じた、ポジティブな言葉の力にもよります。

授業時間が近づき、少しずつ学生がzoomに集まってくると、先生は“Hi, how are you, OO?”, “What did you do today (last night)?”といった言葉を何人かと交わしながら、授業を始められていました。また、難しいテーマに取り組むこともありましたが、その度に先生は、次のステップへ行くために今が必要だから頑張ろう、チャレンジしてみよう、とポジティブな言葉をかけてくださいました。そのためか、自分の考えを言葉にするのが難しく、言語の壁を感じることもあったり、一つ一つに頭を悩ませることがなく、まずは話してみよう、と常に前向きな姿勢で楽しく参加している自分がありました。

また、先述したプレゼンテーションのため、初めての2人でミーティングをした際、私はプレゼンテーションスライドに挿入したいと思っていた写真が見つからない、とパートナーに話したことがありました。すると彼女は「そんなことはいつでも連絡をくれたら、私も探すのに！ 私たちはチームなのだから (“because we're a team”) 」と明るく心強い一言をくれました。オンラインで進めるにあたり、私は分担して、ある程度はそれぞれで準備をしなければならぬと思っていました。しかし、彼女の「チームだから、一緒に話して作っていこう」という考えから、私たちは発表内容だけでなく、スライドに挿入するイラストや写真の一つ一つまで、画面を共有しながら、準備を進めました。現地で直接出会うことができなかった残念な気持ちが残る一方で、オンラインであっても、共に取り組むことは温かな声掛けと工夫によって、とても充実した時間になるのだと感じました。

④ その他

その他、気づいたことや今後参加する方へのメッセージがあれば記入してください。

新型コロナウイルスの流行により、現地へ行くことができないこと、実際に対面で先生方やクラスメイトに出会うことが叶わない残念な気持ちはありましたが、それでもとても充実した時間となりました。これからパンデミックが少しずつ収まるなかで、こうしたプログラムがどのような方たちになるか分かりませんが、オンラインであっても、たくさんのコミュニケーションを通して、英語や授業内容、物事への取り組み方など、様々な刺激を受けたこと、国を越えて温かな交流ができたことは、私にとって貴重な経験となったとお伝えしたいです。

最後に、プログラムの申込にあたって、たくさんの英語のページを読み、その過程もとても勉強になったと感じています。その際に、国際センターの皆さんにたくさん質問やご相談をさせていただき、感謝いたしております。ありがとうございました。